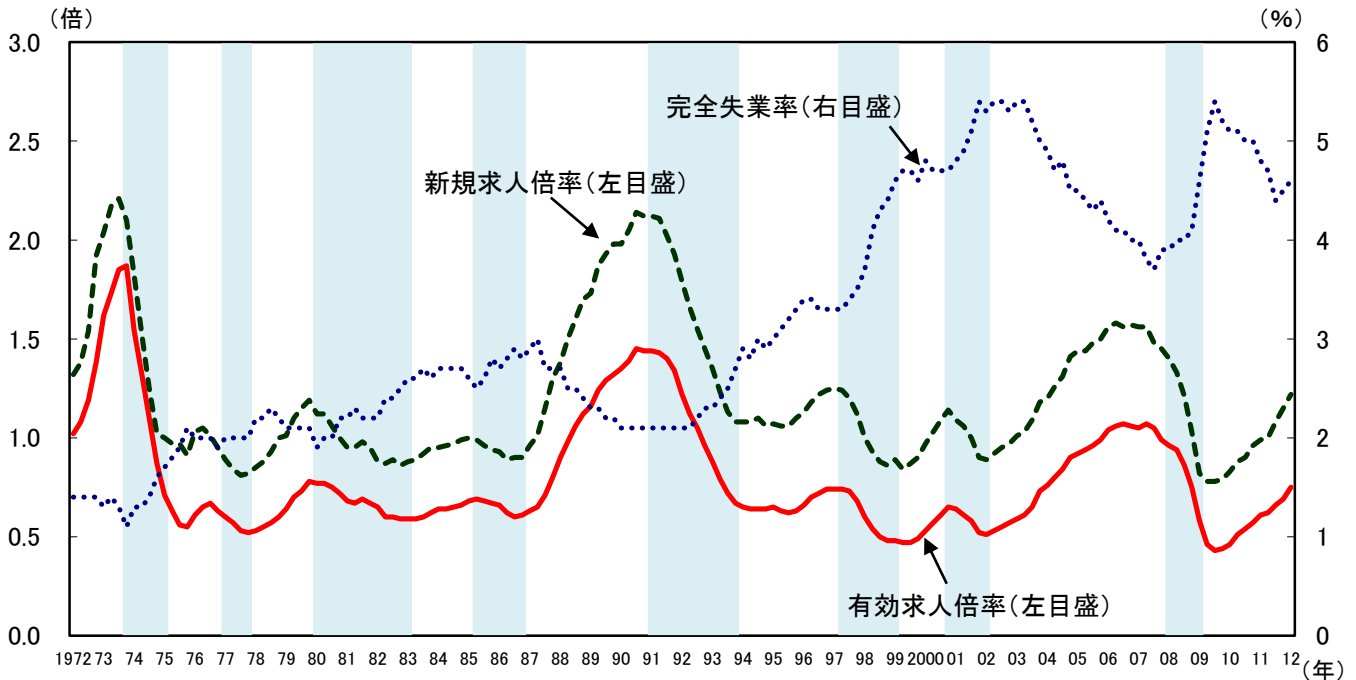


雇用情勢の現状

2011年の有効求人倍率は0.65倍、完全失業率は4.6%となるなど雇用情勢は持ち直しの動きがみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。



資料出所 厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省統計局「労働力調査」

- (注)
- 1) データは四半期平均値(季節調整値)。また、グラフのシャドー部分は景気後退期。
 - 2) 有効求人倍率及び新規求人倍率については、1973年から沖縄を含む。
 - 3) 完全失業率については、1972年7月から沖縄を含む。
 - 4) 有効求人倍率及び新規求人倍率については、新規学卒者を除きパートタイムを含む。
 - 5) 完全失業率の四半期値は、月次の季節調整値を厚生労働省労働政策担当参事官室にて単純平均したもの。ただし、2011年3月から8月までの数値は総務省統計局による補完推計値を用いた。

(雇用情勢は持ち直しているものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい)

○2008年秋のリーマンショックの影響により極めて大きな経済収縮に直面した日本経済は、2009年3月から回復の過程にあるが、2011年3月11日に発生した東日本大震災により深刻な打撃を受けた。その後も夏以降は急速な円高の進行や欧州債務危機に伴う世界経済の減速の影響等を受け、景気の持ち直しの動きは緩やかなものとなった。

○2011年の雇用情勢についてみると、年平均の有効求人倍率は前年より0.13ポイント上昇の0.65倍と引き続き1倍を下回り、完全失業率は前年より0.5%ポイント低下したものの4.6%の水準にあるなど、持ち直しの動きがみられたが、東日本大震災の影響もあり、依然として厳しい状況となった。